

No	項目	委員会	意見	当日の回答	対応状況	現状及び今後の対応
1	県の外郭団体との連携について	第4回	・市町村に加え、高知県文化財団や土佐山内記念財団など、県の外郭団体とも積極的な連携が必要ではないか。	・両財団の協力は不可欠であり、例えば文化財団の現職2名が民俗部会に入っている。 ・今後は人的な交流だけでなく、写真撮影等、調査の協力体制を進めていく。	○	・例えば人材育成では、土佐山内記念財団の協力を得て、調査の補助を行う大学生等の養成を進めている。 ・またR6設置の考古部会では、撮影や実測図作成など資料調査の業務場所として、文化財団が管理する埋蔵文化財センターのスペースや機材を借用する予定。 ・R6以降、財団職員1名を追加で委員委嘱する予定。委員以外との連携についても、各財団の本来業務に配慮しながら、協力体制を更に進めていく。
2	関係団体とのデータ共有について	第5回	・県が関連する資料館や美術館等のデータ管理・整理はどのような状況か。	・関連する団体のデータベースにある情報が公開可能なものか含め、今年度から来年度にかけて各館と調整を行っていく。	△	・令和6年度はまず県立施設を対象とした、各館のデータ整備状況の把握及び公開に向けた協議を進めていく。 ・また同時に令和7年度以降は、把握・整理された資料のデジタル化及び展開の仕方について検討していく。
3	クラウドサービスを活用したデータ共有について	第7回	① アップされたデータが見れない状況が多々あるため、対応・改善策を教えてください。 ② 全部会共通管理が可能となるフォルダを作成してほしい。 ③ 委員間のみでなく、外部関係者と共有可能にできないか。 ④ 配付されたGmailアドレスと県職員のメールアドレスとで、県史関連のやりとりを一元化できないか。	① おそらくデータの容量が問題であると思われる。対応策として、PDFデータを分割することが挙げられるが、各パソコンのスペックや通信環境の問題である可能性も高いため、事務局にて原因を確認させていただく。 ④ Gmailのやりとりについては、配付されたアカウント同士のやりとりに限定されており、県職員メールアドレス(pref.kochi.lg.jp)とやりとりをすることはできない。	△	① 100MB以上のPDFデータを閲覧する際に、プレビューが表示されないことを確認。各パソコンのスペックや通信環境に左右される部分もあるが、PDFを分割し共有することを勧める。 ②③ 各部会より要望を取りまとめ、部会に応じた権限設定の変更、全部会共通のフォルダ作成を令和6年4月を目処に調整していく。
4	県史の判型・段組について	第7回	・資料編について、日記や記録類を掲載することも検討されており、カラー写真の対応について伺いたい。 ・DVDなどの附属資料について検討しており、相談させていただきたい。	・全体の刊行数や各部会の掲載資料や事情等も勘案して、調整させていただき、改めてご報告させていただく。	△	・新しい「高知県史」資料編の構成例については、資料5のとおり。 ・カラー写真や附属資料等については、各部会毎に調整・協議の上、決定していく。
5	高知県史のHPについて	第7回	・高知県のHPの中ではなく、高知県史独自のHPを作成することは考えていただけるのか。	・現在は歴史文化財課のHPに委員会開催状況を掲載することに留まっているが、9月に行われた合同調査の様も随時載せていきたいと考えている。 ・高知県史独自のHPについては、今のところ考えていない。	△	・歴史文化財課HPトップページに高知県史のHPのリンクを掲載。 ・今後、合同調査などの県史編さんの動きや、養成講座など人材育成の紹介を展開していく予定。
6	高知県史の業務報告について	第7回	・電報的な業務報告は検討していないのか。	・「(仮称)高知県史へのいざない」は資料調査の成果や資料の魅力を訴求することを目的とした冊子であり、同時に業務報告であると整理している。 ・より研究者向けの冊子として、研究紀要の発刊を検討しているが、各部会調査が始まったばかりであるため、第1期終了の令和7年度末頃に改めて検討していきたいと考えている。	△	・県史編さん室の業務報告は令和6年度末より毎年の発刊を予定している「(仮称)高知県史へのいざない」やHPにて県民向けに公開していく予定。 ・その他、X(旧twitter)などのSNSを活用した展開は今後の検討課題である。
7	海外資料調査について	第7回	・必要な場合は海外資料調査が可能か。	・入念な事前準備、予算の確保が必要であり、来年度直ちに海外資料調査をすることは困難である。 ・資料の所在、調査の必要性を確認後、来年度以降予算要求していきたいと思う。	△	・まずは県内・国内に残されている歴史資料調査を優先することとし、各部会において海外での資料調査が必要と判断した際には事務局へ相談いただきたい。 ・相談を受け、資料の所在や必要性を事務局にて改めて検討し、次年度以降予算要求するか否か判断することとしたい。

古代・中世部会 活動報告

(1) 令和 5 年度第 3 回古代中世部会の開催

12 月 1 日（金）10：00～12：00 ZOOM にて

参加者 委員 井上・津野・伊藤・岡本・平井・守田（欠席：石畑・森）
事務局 目良・野本

【主要な議題】

- 資料編 1 に収載予定の古代史料の作業進捗確認、編集方針・体裁の検討
- 資料編 1 に収載予定の中世史料に関する収集目録作成状況の確認
- 年度末の合同調査史料の検討・選定
- 事務局による調査について報告
高知市竹林寺所蔵文書/南国市宇賀家文書/大川村和田家文書/安田町安田八幡宮所蔵文書/津野町吉門家文書/

(2) 資料編・本編編纂にむけた作業状況

- 古代史料の編纂方針と出版体裁にむけて
編年体・綱文掲出による史料配列、史料番号体系などの検討
- 中世史料編纂にむけた基本台帳の整備
 - ・旧県史収録史料集（「土佐国蠹簡集」「蠹簡集拾遺」「蠹簡集木屑」「蠹簡集竹頭」「蠹簡集脱漏」「土佐国古文叢」）の目録整備（東大受託）
 - ・「土佐国編年史料控」の目録化（東大受託）
 - ・関係文献目録の作成（事務局）
 - ・関係史料所在目録の作成（事務局）
- クラウド上における情報共有
 - ・上記目録情報の共有
 - ・5 月調査（行宗文書）及び 9 月調査（高知県立歴史民俗資料館所蔵・寄託資料、高知城歴史博物館所蔵・寄託資料）における撮影データの共有

(3) 今後の調査など予定

- 次回部会
3 月 16 日（土） 第 4 回古代中世部会開催 於 東京大学史料編纂所
・・目録作成など基礎作業の推進と次年度作業方針の確認
- 合同調査
3 月 17 日（日）埼玉県立歴史と民俗の博物館にて金子文書を調査

(4) 次年度にむけた課題

- *クラウド利用環境の向上
- *事務局調査史料の委員による調査・撮影
- *資料編 1 収載の中世史料（家分け）の概数確定

令和 5 年度 近世部会の活動

(1) 令和 5 年度の活動について

・ 専門部会

これまでに年 5 回部会開催（※対面 2 回、オンライン協議 3 回実施）

・ 部会調査

令和 5 年 9 月：関田英里氏収集史料（個人蔵）調査

→元高知大学学長の関田英里氏が収集した古文書及び研究メモ等

令和 5 年 12 月：宿毛市立歴史館所蔵の伊賀家古文書及び宿毛市史資料集のコピー史料

令和 6 年 3 月：関田英里氏収集史料と豊永郷西峯（現：大豊町西峯）で代々道番庄屋を勤めた三谷家文書の調査実施予定

・ 個別調査及び活動

東野委員：香美郡野市村の新規郷士大石家に伝来した大石家文書（高知県立図書館蔵）
明神家文書（高知県立図書館蔵）

胡 委 員：本川新資料館の鰐口及び養花院の木像菩薩坐像調査

望月委員：古文書調査講義の実施（望月委員のゼミ生及び県史のアルバイト学生）

事務局作業

- ・ 翻刻作業…アルバイトの学生 8 名が取り組んでいる

翻刻終了：「藩士内篇」（高知大学所蔵）…14 冊の内 11 冊終了

山中家文書 99-2 / 関田英里氏収集史料 2-25

翻 刻 中：関田英里氏収集史料 5-1 5-2 5-3 5-4

- ・ 部会調査の目録精査作業

→調査の際に作成した調査カードや史料撮影の整理（伊賀家古文書・関田英里氏収集史料）

- ・ 市町村の史料所在調査

→県内の自治体史に引用されている史料などをもとに一覧表を作成し、昨年度より

史料情報などは県内の委員（渡部館長・望月委員）と協力して行った

《課題》県史目録等に記載された史料の所在確認

(2) 令和6年度計画

- ・部会の日程決定：年3回（5月・9月・1月）＋オンライン（随時）
5月…部会と併せて令和8年度刊行の史料編の編集作業等の協議
- ・『史料編1』に掲載する史料の選定や目次案の作成
- ・各調査について
部会調査…年2回実施予定（9月・3月）
令和6年8月下旬～9月中旬に引き続き三谷家文書調査を実施予定

【宿毛市立宿毛歴史館調査風景】



【翻刻作業】



【近代部会】活動状況 (令和 5 (2023) 年度後半期の活動)

1 第 7 回近代部会 : 12 月 25 日

- ・主な議題は、①合同・個別の資料調査の実施と成果、②近代資料編Ⅱの目次構成案の検討、③クラウドによる資料の共有化、④今後の資料調査の実施 など

2 近代資料編Ⅱ (町村制実施～1920 年頃) の目次構成案の検討

- ・5 月部会で議論を開始し、9 月部会で飯塚委員から「第一次案」が提案される
- ・12 月の部会で「第一次案」に基づいて検討し、3 月部会でさらに議論を深める予定

3 第 4 回合同調査に向けて

- (1) 調査資料 : ①『安芸市旧役場文書目録』収録資料、②『安芸市戸長役場文書目録』収録資料
③高知市立自由民権記念館所蔵資料 *安芸市図書館所蔵資料の調査は今回で終了する

(2) 資料群の概要

- ①旧安芸郡川北村・安芸町の役場資料 (明治中期から昭和戦前期)
- ②安芸郡内の戸長役場資料 (町村制以前)
- ③『吉良家資料』『細川家資料』『竹村家資料』などで、これまでの調査を継続する

(3) 調査日程、場所及び参加予定者

日程 : 2024 年 3 月 26 日 (火) ~28 日 (木)

調査会場 : 高知市立自由民権記念館

参加者 : 委員、大学院生、事務局、アルバイト

4 部会委員の個別調査

(1) 近代教育関係資料調査 (谷川委員)

調査日程 : 2023 年 12 月 26 日~28 日

調査場所 : オーテピア高知図書館

対象資料 : 「中城文庫」(市民図書館)、「貴重書」(市民図書館)、「小砂丘忠義資料」(県立図書館)
等所収の教育系資料 (明治、大正期の雑誌類が中心)

調査内容 : 閲覧及び必要資料の撮影 (アルバイト学生の補助)

撮影資料数 : 55 点 (いずれも部分撮影)

(2) 近隣県 (徳島、愛媛) に所在する高知県関係資料訪問調査 (羽賀部会長)

調査日程 : 2024 年 1 月 23 日~25 日

訪問先と調査資料 :

- ①徳島県立文書館 : 合県 (1875~1880 年まで高知県は土佐・阿波両国を管轄) 関係資料、四国
遍路関係資料ほか
- ②徳島県立図書館 : 合県関係資料・沖の島管轄替資料ほか
- ③愛媛県立図書館 : 維新関係資料 (松山接收、川之江占領、沖の島等の帰属)

④四国中央市立川之江図書館：維新関係資料（川之江占領・民政局支配、別子銅山接収）

⑤愛媛県歴史文化博物館：降雪のために断念、延期

調査内容：資料閲覧、撮影、資料所蔵状況の聴取

撮影点数：8点（徳島県立図書館）

撮影予定：30点程度（徳島県立文書館、四国中央市立川之江図書館）



A 徳島県公文書館所蔵「高知県布達類写真帳」（18冊）

（3）兵事資料の内容把握作業（小幡副部長）

①弘岡上ノ村旧役場資料（高知市春野町）

②一宮村資料（高知市民図書館特設文庫）→昭和前半部分の撮影が課題

（4）幕末宇和島藩の土佐関係資料調査（奈良委員）

①広島大学日本史教室所蔵伊達家文書目録の調査

（5）部落問題関連資料のリストアップ（筒井委員）

①基本文献目録の作成、②既刊資料集及び図録等の情報提供

②全国水平社創立100周年記念企画展（高知市立自由民権記念館）展示目録

（6）1900年前後の農業関係雑誌や、県内各町村是の内容確認（坂口委員）

5 高知県「近代基盤資料」の作成

・「高知県令等件名目録」 1902年まで整理中

・「戦前期高知県職員録」 1914年まで整理中

6 近代部会におけるクラウドの試用について

・事務局により収集資料をアップする

・今後の部会での運用方法などを検討中

7 県内の近代資料所在調査の状況（簡単な現況）

編さん室の市町村訪問の際などに聞き取った内容を、事務局坂本専門員が「近代資料残存状況」としてExcelの表にまとめている。この中では、須崎市の旧町村資料、議会資料及び幡多地域の役所、役場資料などに委員が関心を示している。

8 今後の近代部会の課題

・須崎市役所所蔵資料の調査

文化財課管理資料「近現代簿冊仮目録」の作成（簿冊56点）、議会事務局所蔵の明治初年からの議事録・議決録の調査



B 須崎市役所文化財課管理資料室



C 文書保存箱



D 須崎市議会図書室所蔵資料



E 同右

・旧幡多郡地域の調査

「伊賀家資料」の内、近代資料の調査

令和 5 年度 高知県史民俗部会の活動について

1. 今後の調査計画について

・中土佐町鎌田民具調査

令和 6 年 3 月 6 日（水）～7 日（木）にかけて、中土佐町鎌田の民具倉庫にて民具調査を実施する。これは、昨年 3 月に同地にて実施した民具調査の続きとなる。調査対象の倉庫には中土佐町で活動していた郷土研究家である林勇作氏が収集した民具資料が未整理のまま保管されている。これに対し、國學院大學の石垣悟准教授の協力のもと調査を行い、資料目録の作成を目指す。調査には、國學院大學と、県内大学の学生がアルバイトとして参加する。



前回の調査風景：民具の撮影



前回の調査風景：民具のクリーニング

2. 資料編①「ことばと伝承(仮称)」に向けて

①文献リストの作成

県史編さん室民俗担当職員にて、県内の民俗に関する文献リストを作成中。これまで『土佐民俗』全 100 号分が完了し、市町村史や関連刊行物(昭和以降のもの)の民俗編のリスト化を進めている。現在はそれに加えて資料編①の刊行に向け、県内の伝説・昔話集など、口承文芸に関する単行本に掲載されている事例のリスト化作業を、学生アルバイトによって重点的に行っている。

②構成について

資料編①の構成について、「口承文芸」、「地名」、「民謡」の 3 つのテーマを設けて編さんすることと、各テーマの主な担当者を、今年度の部会協議にて決定した。今後の協議にて刊行に向けての具体的なスケジュールや作業内容を確認していく。

3. 高知県史民俗編 本編の構成案について

本編の構成については、本編第一巻は「山間部」、「平野部」、「町場と都市」、「沿海部」の4つのテーマから高知県の風土の中の民俗を描くものとし、対して第二巻は第一巻の構成の中で扱いきれない範囲を従来の項目分類から解説するものを検討している。第一巻に関しては各テーマの担当者が決まっており、今後はそれに沿った形での個別調査を行っていくこととなる。

4. 梶原町合同民俗調査

令和5年10月29日(日)～11月1日(水)にかけて、3泊4日の日程で、梶原町にて民俗部会委員全員が参加する合同民俗調査を行った。10月29～30日にかけて行われた梶原町三嶋神社の神祭におけるオナバレや津野山神楽への調査のほか、地域住民への聞き書きや、実地巡見等を行った。



現地調査の様子



津野山神楽にて、子供を抱いて踊る大蛮

5. 個別調査

令和5年10月13日(金)～14日(土)

参加委員：梅野委員

北川村和田の星神社の秋祭りにて行われる行事「夜の田植え」の調査を2日間にわたり行った。また、14日(土)にはその後馬路村魚梁瀬に移動し、神祭のオナバレにて聞き書き調査を行った。



夜の田植え

令和5年12月2日(土)

参加委員：梅野委員

馬路村の冬祭りへの祭礼調査を実施。

令和5年12月26日(火)～27日(水)

参加委員：山本委員

高知市在住の土佐清水市松尾出身者への聞き書き調査にはじまり、土佐清水市松尾現地でのフシナヤ工場(鯉節加工場)等の旧跡や、ツワ寿司、集落の繁栄等について民俗調査を実施。

令和5年12月26日(火)～27日(水)

参加委員：川島委員

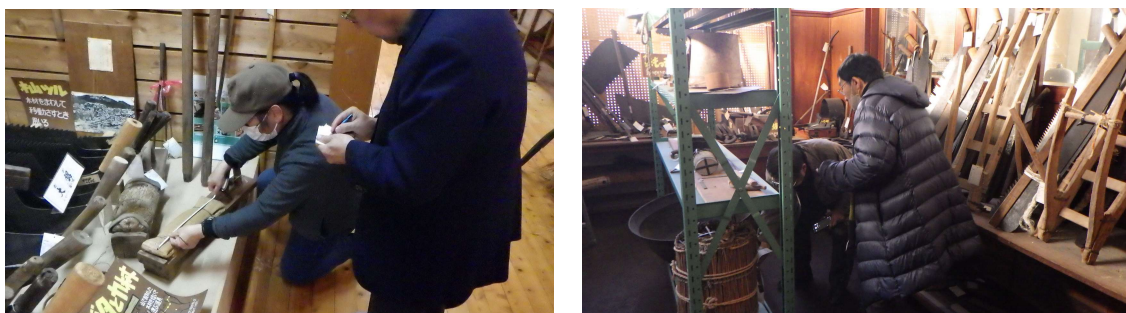
大月町西泊にて現地の漁業関係者へ珊瑚漁に関する民俗調査を実施。

令和6年1月9日(火)、11日(木)

参加委員：梅野委員、中村委員

1月9日(火)に、武蔵野美術大学の神野善治名誉教授と梅野委員、中村委員で中土佐町久礼の民具倉庫と、上ノ加江中学校の校舎にて民具調査を実施した。また、絵馬を保管している矢井賀の大神宮の調査を実施した。

1月11日(木)に、神野善治教授、梅野委員、中村委員で中土佐町大野見の四万十民俗館と、四万十町大正の郷土資料館に保管されている民具資料の調査を実施した。



四万十町大正での民具資料調査

令和6年1月30日(火)

参加者：事務局調査担当チーフ、民俗部会担当者

事務局にて鳥取県立公文書館を訪問し、『新鳥取県史』の編さんにて民俗部会を担当していた職員へ聞き取りを実施。民具編さんのために県内各地で行った民具調査の内容や、県史の構成の決定方法や刊行までのスケジュールなどについて伺った。

令和 6 年 2 月 24 日

令和 5 年度 現代部会の活動状況

1 資料編について

(1) 検討内容

①他の道府県史現代の資料編の検討

山口県史、愛知県史、青森県史、新鳥取県史

2つの構成方法 時期区分優先、分野優先（政治行政、経済社会など）

②高知県の戦後史研究の検討

地域開発・過疎研究の進展

③令和 5 年夏季合同調査（幡多地区）の実施と議論の活性化

(2) 検討から浮かび上がった点

①地域開発・過疎研究の進展と 1970 年代以降の模索

高知県の戦後史研究を網羅的に調べた結果、地域開発の大きな影響と過疎化の進行が検討されてきたことがわかった（特に高知短大の研究者〔森井淳吉さんなど〕）。過疎の視点は、現在の高知県でも大きな位置をしめており、その研究成果は今でも学ぶものがある。ただし 1970 年代以降になると、従来みられなかった朝市や直販所における農家女性の活動や、新たに生活基盤をつくろうとする動きへの注目等、新しい研究も現れる。また、過疎は「ほろびゆくものという感じが濃厚」だが、「それだけでは律しえない側面もある」として、「学問の方法論、地域把握の方法論」の「転換」を模索する研究も登場している（福田善乙「「過疎」問題への序章」高知短期大学『社会科学論集』第 34 号、1977 年）。

②夏季合同調査の成果

本年度の夏季合同調査では、県西部・幡多地区で資料調査と聞き取り調査を行った。その結果、従来はあまり意識されてこなかった県内での人とくらしの積み重ねがよく見えてきた。また、過疎の視点では見えない移動の視点の重要性も浮き彫りになってきた（出稼ぎ先である関西と高知の結びつきの強さ、高知のマグロ漁船の神奈川県三浦半島への移住・出稼ぎなど）。

③新たな視点の必要性

①②から浮かび上がるのは、過疎の視点の再考、長期的視点の必要性、空間的な移動の視点、諸関連を総合的に検討できる視点の必要性である。

④高知県史現代部会での議論

現代部会では、「高知県の現代の特徴は何か」を共通の問題関心として、編さんを進めてきた。資料編においても、この議論を継続発展させたい。

⑤資料編・本編の作成に向けて

以上の③④の課題をふまえるとき、時期区分・分野で区切るスタイルが主流の、従来型の道府県史（現代）の資料編構成では、高知県の現代をめぐる検討課題に十分に対応できないのではないかと思われる。分野の関連や長期的視点、空間的な視点を含めて、諸関連を総合的に検討できる視点を設定し、資料編の編さんとあわせて、高知県の現代の特徴に関する協議を続けることが望ましいのではないか。

(3) 資料編の構成について

①全3巻のテーマと構成

1) 基本方針：「くらし」を巻のタイトルに掲げる

i) 「くらし」の視点

「くらし」は、「高知県史編さん基本方針」に掲げられている「方針」であり、ここでは、高知県の現代を明らかにする総合的・包括的な視点として設定する。資料編には、政治から経済、社会、文化に至る広範囲な領域の資料を「くらし」の視点から重点収録する。

ii) 時代（長期的視点含む）と地域（空間的視点）を考慮した構成にする。

iii) 各巻内部の工夫

たとえば、「政治行政とくらし」「経済社会とくらし」「社会文化とくらし」などのように構成し、「くらし」の視点から各領域の資料を選定していることがわかるように工夫する。

②各巻の構成

1) 「くらし1」

- i) 広義の「くらし」の視点により、高知県の戦後全体にわたる資料を重点収録する
- ii) 高知県西部の資料を重点収録する

2) 「くらし2」

- i) 広義の「くらし」の視点により、高知県の戦後前半期の資料を収録する
- ii) 高知県東部の資料を重点収録する
- iii) 久重会(※)の資料を収録する ※安芸郡芸西村旧久重小学校の同窓会組織

3) 「くらし3」

- i) 広義の「くらし」の視点により、高知県の戦後後半期の資料を収録する
- ii) 高知県中部の資料を重点収録する

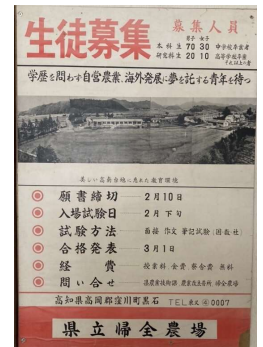
(4) 資料編第1巻の編集作業計画の詳細を作成し部会で確認

2 部会およびプロジェクトの開催

- (1) 第3回 現代部会開催（令和5年12月26日、オンライン）
- (2) 歴史資料調査隊養成講座「聞き書き編・動画撮影編」
令和5年12月16日～17日 受講者7名、現代部会専門委員3名参加
講師 聞き書き編（大門部会長）、動画編（土井鮎太映画監督ほか）
- (3) 高知城歴史博物館出張講座への参加 令和6年2月18日
現代部会より内田委員・宇都宮委員が登壇「久重会の調査概要」
岩佐副部会長は、高知大学人文社会科学部長として登壇

3 主な調査

- (1) 駐在保健婦制度に関する調査（幡多福祉保健事務所・宿毛市沖ノ島）
令和5年11月14日～15日 宇都宮委員、森委員
- (2) 京浜地域における資料調査（県東京事務所・農水省図書室・水産資源研究所図書館）
令和5年11月16日～17日 大門部会長、岩佐副部会長
- (3) 産業・経済分野に関する調査：満州移民からの引き揚げ、漁協、農民教育
（権谷せせらぎ交流館・土佐清水市立旧中浜小学校・旧帰全農場など）
令和5年11月19日～21日 細谷委員
- (4) 幡多地区における行政資料調査（幡多郡旧西土佐村役場・旧大正町役場）
令和5年11月20日 岩佐副部会長、細谷委員、森委員
- (5) 幡多地区の市町村広報誌の検討（オーテピア高知図書館）
令和5年11月～12月 倉敷委員
- (6) 神奈川県三浦半島調査（三浦三崎船員組合の機関誌：三浦市役所所蔵）
令和5年12月2日～4日 森委員
- (7) くらし分野に関する調査（関西地域への移住など：大阪府門真市・守口市）
令和5年12月19日～20日 宇都宮委員



旧帰全農場資料（一例）

4 第1期計画

- (1) 策定：令和5年12月26日 第3回部会にて協議・策定
- (2) 期間：令和5年度から令和7年度
- (3) 内容：国内外における資料調査及び聞き取り調査の方向性
歴史資料調査隊養成講座「聞き書き・動画撮影」の開催など

5 今後の予定

- (1) 調査
 - ① 令和5年度春季合同調査（令和6年3月26日～28日）県西部・幡多地区で撮影準備
 - ② 令和6年度夏季合同調査 高知県東部地区
- (2) 部会
対面で部会（第4回）開催 令和6年3月28日

令和6年度当初予算案の概要について

1 編さん体制の構築

- ・編さん委員会を1回、編集委員会を3回開催
- ・既存の5部会（近世・近代・民俗・古代中世・現代）に加え、来年度から考古部会を立ち上げ、各部会に8名の委員（正副部会長を含む）及び2名の職員（正職員1名＋会計年度任用職員1名）を配置

2 専門部会における予算要望

【古代・中世部会】

- 資料調査（旅費）
県内における集合調査、個別調査（計2回、全委員分、3泊4日）
県外機関の所蔵史料調査（年1回、全委員分、2泊3日）
- 資料調査（人件費）
日々雇用職員による史料台帳作成に必要なデータ整理作業（約560時間）
- 調査委託料（東京大学史料編纂所）
週1日程度、1名の院生による保管されているデータの調査

【近世部会】

- 資料調査（旅費）
県内における集合調査、個別調査（計3回、全委員＋大学院生分、3泊4日）
県外機関の所蔵史料調査（年1回、委員2名分、3泊4日）
- 資料調査（人件費）
県内大学生による、史料撮影及びデータ入力・整理作業（約2,500時間）
集合調査時における、県内大学生、県外大学院生による調査補助（約650時間）
- 翻刻作業
R8刊行予定の史料編に向けた翻刻作業（原稿用紙2,000枚分）
県内外の専門的知識を有する院生等に依頼する予定

【近代部会】

- 資料調査（旅費）
県内における集合調査、個別調査（計3回、全委員＋大学院生分、3泊4日）
県外機関の所蔵史料調査（年1回、委員2名分、3泊4日）
- 資料調査（人件費）
県内大学生による、史料撮影及びデータ入力・整理作業（約2,500時間）
集合調査時における、県内大学生、県外大学院生による調査補助（約600時間）

- 翻刻作業
R9刊行予定の史料編に向けた翻刻作業（原稿用紙800枚分）

【現代部会】

- 資料調査（旅費）
県内における集合調査、個別調査（計3回、全委員分、3泊4日）
県外機関の所蔵史料調査（年3回、委員2名分、3泊4日）
- 資料調査（人件費）
県内大学生による、史料撮影及びデータ入力・整理作業（約1,300時間）

【民俗部会】

- 資料調査（旅費）
県内における集合調査、個別調査（計5回、全委員分、3泊4日）
県外機関の所蔵史料調査（年1回、委員2名分、3泊4日）
- 資料調査（人件費）
県内大学生による、文献のデータ入力・整理作業（約1,000時間）

【考古部会】

- 資料調査（旅費）
県内における集合調査、個別調査（計4回、全委員分、3泊4日）
県内の中世城郭調査（計8回、委員1名+協力者1名分、2泊3日）
県外機関の所蔵史料調査（年2回、委員2名分、1泊2日）
- 資料調査（人件費）
日々雇用職員による資料のデータ、編集作業（約1,100時間）
- 調査委託料（県内ドローン調査）
史料編2に掲載予定の中世山城に関する調査

3 人材育成・広報啓発

- ・ 郷土の歴史及び県史への関心を高めるための講演会を開催
- ・ 学校や団体等の要請に応じて、歴史に関する出前講座を実施
- ・ 県内の歴史系文化施設と連携し、資料調査隊の養成講座を実施
- ・ 県の文化広報誌「とさぶし」や県の広報媒体を活用した、編さん状況や本県の歴史の魅力の発信
- ・ 県民の方々向けの刊行物（「高知県史へのいざない（仮称）」）の制作

広報啓発・人材育成の実施状況について

1. 広報啓発

○ 文化広報誌「とさぶし」の刊行

- ・文化広報誌「とさぶし」を活用した広報の展開（「つないでつむいで 県史編さん室」）。
- ・令和5年度は6月、9月、12月、3月の計4巻発刊予定。
 - 6月・・・現代部会の発足（高知県立公文書館）
 - 交通の近代化を推し進めた土佐人（野村茂久馬）
 - 9月・・・古代・中世部会の発足（東京大学史料編纂所）
 - 土佐の甘味の足跡（山内家史料「生菓子図案集」）
 - 12月・・・現代部会聞き取り調査の様子（幡多ゼミナール資料館）
 - 土佐民話の紙芝居（市原麟一郎）
 - 3月（予定）・・・県史編さん室の資料調査について
 - 上東中学校（映画）
- ・令和6年度も3月に1回、年4巻の頻度で「とさぶし」を刊行する予定。

○ 講演会の開催

- ・下記のとおり、共催として講演会に参加。
 - ① 令和5年11月11日
 - 「大津地域の古文書目録刊行記念シンポジウム 土佐清水の歴史を編む」
 - 主 催：高知地域資料保存ネットワーク
 - 会 場：土佐清水市中央公民館
 - 報告内容：高知県史の編纂について
 - ② 令和6年2月18日
 - 「地域の歴史と過疎問題について -芸西村久重地区を事例として-」
 - 主 催：高知県立高知城歴史博物館
 - 会 場：芸西村村民会館
 - 報告内容：久重山集落、久重会に関する調査内容について
- ・令和6年度予算にて、講演会開催費用を計上。

2. 人材育成

○ 「歴史資料調査隊」養成講座の開催

・下記のとおり、養成講座を実施

① 令和5年12月16日～17日 「聞き書き編・動画撮影編」

講師：大門 正克 氏（早稲田大学特任教授、高知県史 現代部会長）

土井 鮎太 氏（映画監督、ディレクター）

笹島 康仁 氏（ジャーナリスト）

内容：歴史伝承者への聞き書き調査時における心構えや留意点、

及び動画撮影に関する基礎講座（座学及び実習）

受講者数：7名（他 現代部会専門委員 3名参加）

② 令和6年2月16日～17日 「資料撮影編」

講師：高知県立高知城歴史博物館 地域企画課

内容：歴史資料の取扱い方、写真撮影方法

受講者数：12名（予定）

・令和5年度も同様の養成講座を2回実施し、修了生約20名を会計年度任用職員（日々雇用）として採用。県内各地での資料撮影調査、県史編さん室でのデータ整理業務に携わる。

・引き続き、上記養成講座を開催するとともに、修了生に対し継続的に歴史資料に携わる機会を提供していく。

新しい『高知県史』資料編の構成例について（案）

1 構成例検討の必要性

- 令和6年度から資料編の編集が開始される。刊行に向けて仕様書を作成するために基本となる構成の例を作成する必要がある。
- 資料編及び本編の1巻あたりの想定ページ数は、第7回高知県史編さん編集委員会（R5.10.20、以下第7回編集委員会）において、文献（古代・中世、近世、近代、現代）はA5判1,000ページを基本とすることで了承。民俗、考古、文化財及び自然は検討中または部会発足後に検討。構成例は、まず文献の資料編から検討する。

2 近年刊行された他県県史の資料編（近世）の構成例比較

単位：ページ数

構成	愛知県	青森県	鳥取県	山口県	備考
刊行物	資料編領主1	資料編近世2	資料編近世1	史料編近世5	
判型	菊判	A4判	A5判	A5判	
化粧紙	1	1	1	1	和紙
中表紙	1	1	1	1	
口絵	16	24	2	8	カラー、コート紙
序	2	1	2	2	執筆：知事
刊行言		2			執筆：編集委員長
はじめに		2			執筆：部会長
凡例	4	3	2	4	
目次	5	2	8	4	
細目次	16			10	山口県史は巻末に収録
総合解説	10				編集方針、構成、調査等
史料解説		17		97	青森県史は章ごとに解説掲載
史料解題			29	17	
史料	925	712	902	910	
解説	99				史料解説及び解題
あとがき	2			2	執筆：部会長
執筆分担	1				
史料提供	2	1		1	機関・個人を掲載
関係者名簿	5	2	2	3	事務局職員ほか
掲載史料一覧	9	5		2	愛知県史は関係人物一覧含む
奥付	1	1	1	1	
計	1,099	774	950	1,063	
付録	・月報8ページ 「県史のしおり」 ・CD 「藩士DB」	・付図 「弘前～絵図」 ・津軽家年表	・CD (資料編PDF)	・月報6ページ 「県史の窓」	

注) 構成例は各県の近世史料編から、新しい高知県史の想定ページ数に近似するものを抽出した。
ただし、青森県のみA4判であり、ページ数も近似しないため、藩政史料を取り扱う『近世2』を事例に挙げた。

3 新しい『高知県史』資料編の構成例

- ・ 2の構成例を参照し、文献の資料編は以下の内容の構成を基本として提案する。

(構成)	(ページ数)	(内容)
化粧紙	1	和紙
中表紙	1	厚紙
口絵	8	コート紙 カラー写真・図
序	2	編さん委員長 (知事)
凡例	4	
目次	4	
解説	52	史料解説・解題など
史料	927	
あとがき	2	部会長
史料提供	2	機関・個人
関係者名簿	2	
掲載史料一覧	4	
奥付	1	
計	1,010	

- ・ 序～奥付のページ数は、製本の関係から可能な限り8の倍数とする。
- ・ 凡例～奥付の構成については、上の構成例とページ数をふまえて、各専門部会で決定する。
- ・ 索引の掲載は、資料編各巻ごと、または資料編最終巻にまとめるなど、各専門部会で検討し決定したい。

(参考) 旧『高知県史』近世史料編の構成

(構成)	(ページ数)	(内容)
中表紙	1	厚紙
口絵	12	コート紙 モノクロ写真・図
改題	24	
凡例	1	
目次	40	
史料	1,465	
あとがき	2	編さん委員会事務局長
編さん名簿	1	
索引	12	
奥付	1	
計	1,559	

史料調査の成果をまとめた冊子について

1 タイトル案

- ①『新たな高知県史へのいざない』
- ②『高知県の歴史をたずねて』
- ③『高知県史の扉』

副題：高知県史編さん事業報告書 No. 1

2 構成

- ・ A4 16ページ フルカラー印刷
- ・ 表紙＋各部会2ページ見開き×6部会＋事務局2ページ＋裏表紙
- ・ ページの半分以上に画像データを掲載し、文章記事はできるだけ簡潔かつ歴史に詳しくない人でも分かりやすいものとする。

3 記載内容

(想定例)

- ①調査活動を進める中で、新たに見つかった史料(資料)の紹介
 - ②県史に掲載される可能性の高い、部会のおすすめ史料(資料)の紹介の、いずれか
- +各部会(長)の県史編さんに向けた意気込み、メッセージ
+画像データ
(史料(資料)、調査活動・専門部会の様子、関連する史跡、施設 など)

4 デザイン、レイアウト

業者に委託して作成

(想定先) 広報誌等のデザイン・企画について実績のある事業者

- 例1) 文化広報誌「とさぶし」
- 例2) 観光パンフレット「こうちじん」
- 例3) 集落活動センター情報誌「土佐巡里(めぐり)」

5 各部会への作業依頼

- ・ 記載内容の検討、決定
- ・ 文章記事の作成
- ・ 画像データの提供
- …所蔵者や撮影元、映っている人物への掲載許可を含む

6 発行スケジュール

- ・ 令和7年3月中の刊行を想定
- ・ 令和6年4～6月中に業者を決定
- ・ 令和6年7月頃、記事の文字数等具体的な内容で各部会に執筆依頼
- ・ 令和6年11月中に記事原稿と画像データを事務局が取りまとめ
- ・ 3～4回程度の校正を経て、刊行